

「センサー総合化学 3rd edition」の訂正につきまして

本書には次のところに誤りがあります。深くお詫び申し上げますとともに、下記のように訂正の上、ご使用いただきますようお願い申し上げます。

(株)新興出版社啓林館編集部

本編			
頁	箇所	誤	正
52	例題 15(2)	イオンの電荷が大きくなると、①陽イオンの半径・②陰イオンの半径・③	「①陽イオンの半径」・「②陰イオンの半径」・「③イオンの電荷」が大きくなると、
195	272 (2)	完全燃焼させたときの反応エンタルピーが -222 kJ/mol のとき、	完全燃焼させたときに 222 kJ の熱を発生した場合、
196	278 (c)	気体の水の生成エンタルピーは、液体の水の生成エンタルピーより大きい。 * 修正に伴い別冊解答(c)の解法も変更しております。 気体の水(水蒸気)と液体の水は異なるエンタルピーをもっており、水蒸気の方がエンタルピーが大きいので、水素と酸素から生じる生成エンタルピーは小さい。	水の融解エンタルピーは蒸発エンタルピーより大きい。  別冊解答 水の融解より蒸発の際の分子間力の変化が大きい。このため、融解エンタルピーより蒸発エンタルピーの方が大きい。
218	301 (4)	均一触媒の例を * 変更に伴い別冊解答解法も変更しました。 (4)均一触媒として酸化マンガン(IV)MnO <sub>2</sub> のほか、塩化銅 CuCl <sub>2</sub> がある。	不均一触媒の例を * 別冊解答解法 (4)過酸化水素の分解には、不均一触媒として酸化マンガン(IV)MnO <sub>2</sub> 、均一触媒として塩化鉄(III)FeCl <sub>3</sub> がある。
389	71 (2)	(a) ② 8 個 (b) ②12 個	(a) ② 8 (b) ②12

別冊解答			
頁	箇所	誤	正
99	229 (2)	求める圧力を V[L]とすると	求める体積を V[L]とすると
119	274 別解2		
		$227 \text{ kJ} + x[\text{kJ}] = -394 \text{ kJ} \times 2 + (-286 \text{ kJ})$	$x[\text{kJ}] = -(227 \text{ kJ}) - 394 \text{ kJ} \times 2 + (-286 \text{ kJ})$
167	352 (5)	0.150 mol/L * 変更に伴い本冊略解も同様の修正を行っています。	$1.5 \times 10^{-1}$ mol/L
227	453(2)	カルボン酸 M 構造式 OOOH	カルボン酸 M 構造式 COOH
249	487 解法		
264	489(4)解法	$2\text{Mg} + \text{CO}_2 \rightarrow \text{C} + 2\text{MgO} \quad \Delta H = x[\text{kJ}]$	$2\text{Mg}(\text{固}) + \text{CO}_2(\text{気}) \rightarrow \text{C}(\text{黒鉛}) + 2\text{MgO}(\text{固})$ $\Delta H = x[\text{kJ}]$